

地学協働

09

2023年6月



バックナンバーは
こちらから御覧い
ただけます。

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

1

北海道地学協働活動推進会議 構成員の紹介

道教委では、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う地学協働活動の充実を図るための方策について検討し、地方創生の推進を図ることを目的とした「北海道地学協働活動推進会議」を年に3回行っています。

今回は、道内各地で地学協働活動を推進されている8名の構成員の「地学協働にかける思い」を紹介します。



谷 龍嗣 (たに りゅうじ) 【留萌市】
NPO法人留萌観光協会人財育成担当
「子どもたちの無限の可能性と人間力醸成は地域の応援が力に！ともに前へ」



川口 絢末 (かわぐち あやみ) 【八雲町】
八雲町教育委員会社会教育課
「子どものみならず、地域に暮らす私たち大人にも得られるものが多い」



本間 玲子 (ほんま れいこ) 【中標津町】
なかしべつ町民活動ネットワーク
「お互いは何をなすべきかといつも問いかけながら学び続けていく社会を」



服部 将大 (はっとり まさひろ) 【登別市】
登別市役所総務部企画調整グループ
「地元の高校生と地域をつなぎ、地元の現状・課題の発見・考察を一緒に！」



清水 純二 (しみず じゅんじ) 【音更町】
帯広市教育委員会学校地域連携課
「これまでいただいた、地域や学校の御意見を活かせるようがんばります」



藤澤 大介 (ふじさわ だいすけ) 【平取町】
平取町町民課町民福祉係
「地学協働を理解して様々な活動ができるよう、がんばります」



池本 美紀 (いけもと みき) 【神恵内村】
民宿きのえ荘
「他の地域の取組を参考に自分の地域に活かしたいです」



松川 理恵 (まつかわ りえ) 【名寄市】
名寄市立智恵文中学校
「一般教員として、地学協働活動の発展に貢献したいと考えております」

北海道地学協働アワード2023開催決定

発表・本審査・表彰は
令和6年2月16日

地学協働に取り組んでいる学校のうち、**地域と連携・協働体制を構築し、地域課題の解決のために生徒が多様な学習活動に取り組んでいる学校**に対して、その功績をたたえるとともに、全道における地学協働のより一層の推進と活性化を図るため、北海道教育委員会教育長が表彰します。参加対象は、道内の公立の高等学校、中等教育学校（後期課程）、特別支援学校（高等部）です。エントリーは12月1日までです。ぜひ御参加ください。



詳しくは
こちら



P R 動画
(YouTube) 1

令和4年5月1日現在の北海道のコミュニティ・スクールの導入状況は、グラフのとおり、各校種とも、年々増加しています。

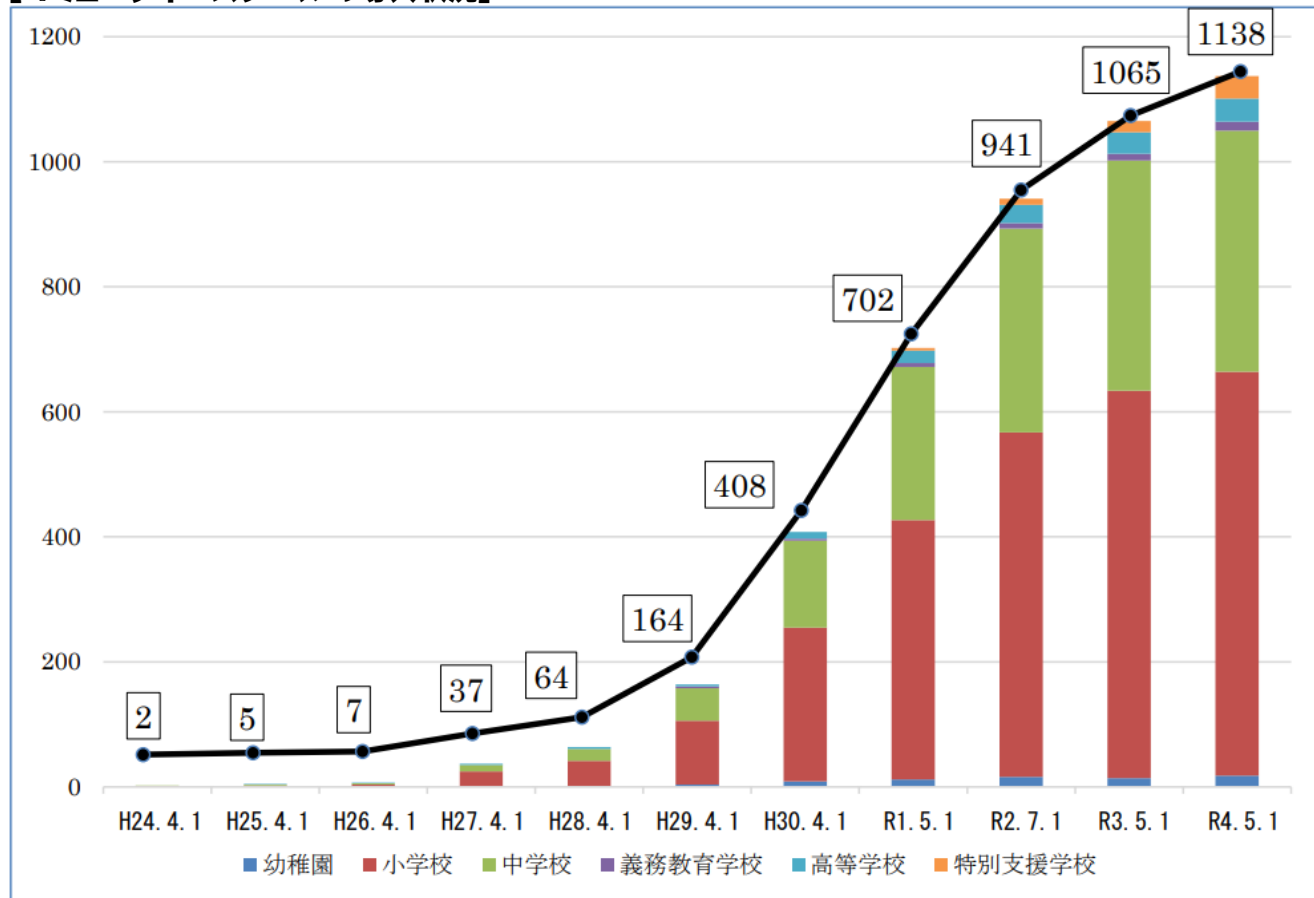
一方、下段のとおり、地域学校協働本部の整備状況は、全国平均をやや下回っているところです。

地域学校協働活動と学校運営協議会が一体的に推進できるよう、体制整備を推進するとともに、持続可能な組織体制を整えていくことが大切です。

道教委では、地域学校協働活動推進員等の活動事例の収集・提供を実施し、効果的な取組を普及・啓発するとともに、学校や地域の実情に応じた教職員と地域学校協働活動推進員等を対象とする研修機会の拡充などに取り組んでいます。

行政と学校、地域住民、企業等が連携し、子どもたちが主体的に学び、その成果を発信する場を充実させることにより、地域の課題解決や地域創生の実現に向けた取組を推進していきます。

【コミュニティ・スクールの導入状況】



【地域学校協働本部の整備状況】

	本部数	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	中等教育学校	高等学校	特別支援学校	合計
全国	12,333	612	13,160	5,976	120	4	494	202	20,568
整備率	—	20.0%	70.7%	66.0%	75.5%	11.8%	14.2%	18.3%	57.9%
北海道	211	17	482	284	8	0	13	0	804
整備率	—	40.5%	63.8%	62.4%	42.1%	0%	6.0%	0%	51.7%

※令和4年5月1日現在【札幌市を除く】

出典：令和4年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査の結果（道教委）



全国で授業補助、環境整備、登下校の見守り、放課後子供教室、中高生等への学習支援等の地域学校協働活動が推進され、地域と学校の連携・協力体制が構築されてきており、保護者や地域住民等、多くの関係者が学校の取組や子どもたちに直接関わる機会が増えました。だからこそ重要になるのが、学校・家庭・地域で情報及び課題・目標・ビジョンの共有を確実に行うことです。これらの共有が十分でないと、一方が他方に「お願い」をし、それに対して「支援をする」という、貸し借りのような関係になってしまうことがあります。

そこで、地域とともにある学校の運営においては、学校運営協議会で行う協議に加え、熟議・協働・マネジメントの3つの視点をもって、右図のような共有の好循環をつくるのが重要です。

今号では、改めて「熟議とは何か。」についての説明と、道内の効果的な取組について紹介します。



出展：コミュニティ・スクール2018 文部科学省

■ 熟議とは何か？

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議（熟慮と議論）」を重ねることが大切です。熟議の実施により、子どもたちに関わるより多くの方の意見を取り上げることができます。

【具体的なプロセス】

- (1) 多くの当事者（保護者、教職員、地域住民等）が集まって、
- (2) 課題やビジョンについて「熟慮」し、「議論」することにより、
- (3) 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- (4) それぞれの役割に応じた解決策や方策が洗練され、
- (5) それぞれが納得して自分の役割を果たすようになる。

<ポイント>

学校や子供たちの課題等を学校だけで抱え込んでしまうのではなく、保護者や地域住民等、多様な関係者とともに「1つのテーブルにつくこと」です。そこで新しいアイデアや考え方が生まれ、今後の方針を決めていくたくさんのヒントが得られます。

【熟議：例】

A小では「子供たちに家庭学習の習慣が定着していない」という課題が。そこで…

<熟議のテーマ>

子供たちが自ら机に向かう習慣を身につけるために学校・家庭・地域ができることは？



(教師)
朝学習で算数のドリルをやらせてみたらいいのでは？

(保護者)
もっと魅力ある授業を展開してほしい！

(地域住民)
子供の自主性を言う前に、まず、大人が学習する機会を設けるべきではないか？

(地域住民)
保護者同士で「熟議」をさせてみては？

そんなアイデア、考え方があったんですね！

→「すぐに行える取組」から協働活動へつなげていきます。

出典：コミュニティ・スクール2018 文部科学省



熟議に関する
文部科学省資料

■ 道内の効果的な取組事例

～「学校運営協議会」を活性化させている事例～ <厚真地区（中学校区）学校運営協議会の取組>

- 地域コーディネーターが学校運営協議会に出席し、必要な情報を地域に伝えたり、地域の要望を学校に伝えたりして、「ふるさと教育」の推進につなげています。
- 学校運営協議会が情報共有の場や意見交換の場に終始しないよう、①情報共有、②意見交換、③次へのアクションというスモールステップで、学校と地域が協働して取り組むパートナーシップを意識しています。



【学校運営協議会における
ワークショップの様子】

参考：令和4年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰



○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

学校図書館は、学校と地域全体で連携・協力し、組織的に環境整備や利活用の促進に取り組むことが大切です。今号は、道内の2管内から、学校司書の活用の推進と環境醸成の工夫に関する好事例を紹介します。

【渡島管内】学校司書と地域住民が支える学校図書館（函館市立巴中学校）



明るく開放的な図書館

函館市内の全小・中学校で学校司書の配備を完了

函館市では令和3年度（2021年度）までに、4年をかけて、市内全ての小・中学校で学校司書の配置・訪問体制を整備しました。現在15名の学校司書が、一人3～5校を受け持ち、拠点校から近隣各校を訪問する形で勤務し、計画的に学校図書館の環境整備を進めています。

CSと連携し、地域人材が学校図書館運営に参画

巴中学校では、学校司書、司書教諭、教員、図書委員に加えて、地域の図書館ボランティア約10人が学校図書館の運営に関わっています。学校司書の勤務終了後は、ボランティアが貸出・返却や生徒の利用を見守ることで、午後4時45分の閉館時刻まで多くの生徒が学校図書館を利用することにつながっています。



学校司書（左）とボランティアで展示の準備

【留萌管内】学校全体でつくる居心地の良い図書館（北海道留萌高等学校）



跳び箱を再利用！

学校司書による資料の利活用の推進

留萌高等学校では、学校司書である指導実習助手を中心に、学校図書館全体計画の下、各教科の学習に関連する図書や新聞の活用、蔵書のデータベース化による貸出しの管理など、資料の利活用の活性化に取り組んでいます。今後は、道立図書館の協力貸出を活用するなど、学校図書館の機能の充実を目指しています。

生徒による環境整備の充実

図書委員が中心となり、蔵書を紹介するポスターやPOPを作成し、学校図書館内や生徒玄関ホールの図書紹介コーナーに掲示し、校内における親しみやすい読書環境を構築しています。図書展示台の一部は、電気・建築科の生徒が跳び箱を再利用して制作しました。学校図書館の静かな雰囲気や、学校司書との関わりを楽しみにやってくる生徒もいるなど、居心地の良い図書館づくりが進められています。



おすすめ本コーナー

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>